

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
情報処理 I	外部	1年	2	32h	林業
背景と目的	データ整理・プレゼンテーションを効率的・効果的に行うため必要不可欠である				
科目内容	コンピュータの基本的な操作、インターネット接続やワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの基本的な操作を習得する				
関連科目	情報処理 II				
講義内容	(1)コンピュータの基本的な操作、セキュリティ講習(4時間) (2)ワードプロセッサ(Word2010)の基礎演習(8時間) (3)表計算ソフト(Excel2010)の基礎演習(12時間) (4)プレゼンテーションソフト(PowerPoint2010)の基礎演習(8時間)				
到達目標	それぞれの操作方法を理解する				
進め方	各自のパソコンを操作して行う				
教材	「情報リテラシーOffice実践」富士通オフィス機器株式会社(富士通FOM)、プリント配付				
成績評価	授業内の課題提出で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
情報処理 II	外部	2年	2	32h	林業
背景と目的	データ整理・プレゼンテーションを効率的・効果的に行うため必要不可欠である				
科目内容	コンピューターを活用し、卒業論文作成に役立てたり、農林業分野で活用するための応用力を身に付ける				
関連科目	情報処理 I				
講義内容	(1)ワードプロセッサ(Word2010)の基礎演習(12時間) (2)表計算ソフト(Excel2010)の基礎演習(12時間) (3)プレゼンテーションソフト(PowerPoint2010)の基礎演習(8時間)				
到達目標	それぞれの操作方法を理解する				
進め方	各自のパソコンを操作して行う				
教材	「情報リテラシーOffice実践」富士通オフィス機器株式会社(富士通FOM)、プリント配付				
成績評価	授業内の課題提出で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
林業入門	内部	1年	1	16h	林業
背景と目的	林業についての基礎的知識を学び、講義や実習等がスムーズに理解できるようにする				
科目内容	林業全般についての広く、浅く全体を関連づけて学ぶ				
関連科目					
講義内容	(1)森林の機能・測る・安全 (2)森林づくり(植栽→保育→収穫) (3)木材・木材利用・特用林産物 (4)林業算術(面積・体積・比例・単位換算・三角関数)				
到達目標	林業の概要について理解する				
進め方	講義主体に行う				
教材	プリント等配布				
成績評価	出席50%・態度50%				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
林業概論	普及S・内部	1年	2	32h	林業
背景と目的	森林資源が充実し、林業の成長産業化が望まれる中、林業を取り巻く状況を理解する				
科目内容	国、県の林業情勢を把握し、森林の持つ重要性及び林業関係法令・施策を理解する				
関連科目					
講義内容	(1) 森林・林業の基礎 (2) 国有林と民有林 (3) 森林の持つ多面的機能 (4) 森林・林業・木材産業の現状と課題（白書を通じて） (5) 島根県の森林・林業・木材産業の現状と課題 (6) 気候と植物の分布 (7) 森林・林業関係法令 (8) 森林計画制度・保安林制度				
到達目標	林業を取り巻く状況を理解する				
進め方	講義主体に行う				
教材	「森林科学」(実教出版株式会社)、「森林・林業白書」林野庁(農林統計協会)、プリント等の配布				
評価方法	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
森林林業政策	島根森林管理署 県庁各G	2年	1	16h	林業
背景と目的	国や県の森林・林業関係の施策・制度について理解する				
科目内容	国や県の関連部署から制度の概要や施策の背景、内容等の説明を受ける				
関連科目					
講義内容	(1) 国有林の政策（国有林の取り組み） (2) 島根県農林水産基本計画（林業分野） (3) 造林補助制度・森林計画制度 (4) 治山林道事業・保安林制度				
到達目標	施策・制度の概要を理解する				
進め方	講義主体に行い、必要に応じて現地等を視察する				
教材	プリント等の配布				
評価方法	レポート・定期試験等80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
林業経営	内部	1年	1	16h	林業
背景と目的	林業経営の現状と課題を理解する				
科目内容	森林の評価手法等を学ぶ				
関連科目	林業概論				
講義内容	(1) 私有林の経営と国有林の経営 (2) 全国の有名林業地 (3) 林業の補助・融資・税制、森林認証 (4) 森林の評価（費用価法・期望価法・市場価逆算法）				
到達目標	林業経営の現状を理解するとともに、森林の評価手法の概要を理解する				
進め方	講義主体に行う。(2)は、課題を与え、学生各自で書籍・インターネット等を活用し調べ、発表する				
教材	「森林経営」実務出版株式会社発行・プリント等配布				
評価方法	小テスト・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
林業経理	外部	2年	2	32h	林業
背景と目的	企業会計の基礎となっている簿記の基礎を学ぶ				
科目内容	森林組合や事業体等で経営・採算性等の実情を計数的にとらえる手法を学ぶ				
関連科目					
講義内容	(1) 簿記の基礎(意味・前提条件) (2) 貸借対照表と損益計算書(簿記の要素・純損益の計算等) (3) 取引と勘定(分解と勘定記入等) (4) 仕分けと転記(仕訳帳・総勘定元帳等) (5) 取引の記帳 (6) 試算表と精算表(種類と作成方法) (7) 決算(決算の意味・手続き・報告) (8) 財務諸表の作成(総合演習)				
到達目標	簿記の基礎を理解する				
進め方	講義主体に行い、各時間ごとに演習問題を解き理解度を確認する				
教材	「新簿記」実教出版株式会社				
評価方法	小テスト・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
経営実践	県内林業事業体	2年	1	16h	林業
背景と目的	県内の事業体を知るとともに、経営に対する考え方を知る必要がある				
科目内容	実際に経営を行っている森林組合や民間事業体の経営者等から現状や課題や対応策を学ぶ				
関連科目	事業体経営・事業体管理				
講義内容	(1) 森林組合の森林経営 (2) 民間事業体の森林経営(育林・素材生産・製材)				
到達目標	県内の事業体を知り、現状を理解する				
進め方	講義主体で行う				
教材	プリント等の配布				
評価方法	レポート80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
事業体経営	外部	2年	2	40h	森林技術 経営管理
背景と目的	経営に関する意識を高めるとともに、社会人としての基礎力を向上させる				
科目内容	中小企業経営及び社会人になるうえで必要な項目等について学ぶ				
関連科目	経営実践・事業体管理				
講義内容	(1) 中小企業経営の課題 (2) 人生設計とキャリアデザイン (3) 労働環境(賃金・福利厚生・メンタルヘルス) (4) 働きやすい職場づくり (5) 人材育成・技術力向上 (6) 前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力 (7) 起業の可能性				
到達目標	経営意識を高めるとともに、社会人として必要な力を身に付ける				
進め方	講義及び演習(ケーススタディ)・グループワークを中心に行う				
教材	「プレステップ 経営学」(株式会社 弘文堂)及びプリント等配布				
評価方法	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
事業体管理	外部	2年	2	40h	森林技術 経営管理
背景と目的	事業体を健全に運営するためには、組織の活性化が重要である				
科目内容	基本となる「人間関係」について、実際の視点を交えて考察する				
関連科目	事業体経営				
講義内容	(1) 組織における労働とは (2) 人を動かす・人に好かれる・人を説得する・人を変える (3) コミュニケーションスキルを高める (4) 人間関係の円滑化 (5) 働き方改革の目指すもの (6) 働き方改革の実現のために (7) AIやITリテラシー				
到達目標	より良い人間関係の作り方について自分の考えを持つ				
進め方	図書を精読するとともに、演習等により考え方をシェアし合うことを基本に進める				
教材	「人を動かす」D・カーネギー 創元社、プリント等配布				
評価方法	レポート80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
樹 木	中山間C	1年	2	32h	林業
背景と目的	樹木類の名称とその利用方法等について理解する				
科目内容	森林・造園木の主要樹種を現地で観察しながら、特性・識別方法等を習得する				
関連科目					
講義内容	(1) 樹木識別のポイント（葉・樹皮・芽・花等）、植物採取方法 (2) 冷温帯の樹木 (3) 暖温帯の樹木				
到達目標	針葉樹・広葉樹合わせて50種以上の名前を覚える				
進め方	講義及び森林等における樹木観察により行う				
教材	「樹木」(総合版) 尼川大録/長田武正(保育社)、プリント等の配布				
評価方法	小テスト・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
測 樹	内部	1年	2	32h	林業
背景と目的	森林の維持管理・現況把握のために必要な測樹の知識を身に付ける				
科目内容	測樹の意義を学ぶとともに、単木の測定方法・森林の測定方法を学ぶ				
関連科目	林業経営				
講義内容	(1) 測樹の目的・概要 (2) 立木・伐採木の計測（胸高直径・樹高の測定） (3) 森林の計測（毎木調査・標準地調査、森林の現況把握） (4) 樹幹解析（調査木の伐採と円板の採集と調査方法、材積・成長量の計算）				
到達目標	単木・森林の測定方法を理解する				
進め方	講義及び森林等における実習により行う				
教材	「森林経営」(実教出版株式会社)、「実験実習の手引き」(全国林業改良普及協会)、プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
測 量	内部	1年	2	32h	林業
背 景 と 目 的	測量の基本技術を学ぶ				
科 目 内 容	測量の目的、基礎知識及び林業経営に必要な測量法を習得する				
関 連 科 目	森林情報・スマート林業				
講 義 内 容	(1) 測量の歴史・基礎知識 (測量の種類・地形図の見方・単位換算等) (2) 周囲測量 (コンパス測量) (閉合誤差・誤差修正等) (3) 水準測量 (オートレベル・ハンドレベル)				
到 達 目 標	測量の基本技術を理解する				
進 め 方	講義及び森林等における実習により行う				
教 材	「実験実習の手引き」(全国林業改良普及協会)、プリント等の配付				
成 績 評 価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評 価 基 準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備 考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
森林情報	外部講師	2年	2	32h	林業
背 景 と 目 的	林業でも広く使用されている、GIS・GPSの使用方法を理解する				
科 目 内 容	GIS・GPSの基礎を理解し、就職後にも活用できる活用術を学ぶ				
関 連 科 目	測量・スマート林業				
講 義 内 容	(1) GISの基礎知識 (2) QGISの概要と基本操作 (3) レイヤ操作・主題図作成 (4) GPSの基礎知識 (5) D-GPSの基本操作・デジタルコンパスの基本操作 (6) 測量情報の管理				
到 達 目 標	GIS・D-GPS・デジタルコンパスの基本的な使用方法を理解する				
進 め 方	講義・演習及び森林等における実習により行う				
教 材	プリント等の配付				
成 績 評 価	課題提出・定期試験等80%、出席・態度20%の割合で評価				
評 価 基 準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備 考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
森林経営計画作成	森林計画G・内部	2年	2	32h	林業
背 景 と 目 的	採算性を高め適切な森林整備を行うために必要な森林経営計画を理解する				
科 目 内 容	経営計画の作成手法を学び、実際の作成予定地の概要調査を行い、計画作成する				
関 連 科 目	森林施業プランナー				
講 義 内 容	(1) 森林経営計画の概要と認定基準 (2) 作成予定地の概要把握 (GIS・航空写真等) (3) 作成予定地の現地調査 (4) 森林経営計画の作成 (5) 森林組合作成の経営計画との比較				
到 達 目 標	森林経営計画の作成				
進 め 方	モデル団地を設定し、実際に作成してみ、森林組合が作成した経営計画と比較してみる				
教 材	プリント等の配布				
成 績 評 価	小テスト・経営計画作成80%、出席・態度20%の割合で評価				
評 価 基 準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備 考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
森林施業プランナー	外部講師・内部	2年	2	32h	林業
背景と目的	利用間伐に限らず、主伐や伐採後の更新作業も含めた、森林の集約化が必要である				
科目内容	森林を集約化し、目標林型や施業方法を決定して収支計算を行い、作成した提案書をプレゼンする				
関連科目	森林経営計画				
講義内容	(1) 森林の現況把握と目標林型の設定 (2) 団地ごとの施業内容の選択 (3) 路網配置計画 (4) 作業システムの選択と作業工程管理 (5) 原価管理と有利販売 (6) 合意形成のためのコミュニケーション				
到達目標	森林施業提案書の作成及びプレゼンテーション				
進め方	GISや現地調査をもとに集約化した森林の将来像を描くとともに、施業方法や収支計算を行い森林所有者への提案書を作成する				
教材	森林施業プランナーテキスト(森林施業プランナー協会)、プリント等の配布				
成績評価	小テスト・森林施業提案書作成80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考	可能な限り、森林施業プランナー認定特別一次試験に合格する				

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
スマート林業	外部	2年	2	32h	林業
背景と目的	全国的にスマート林業の躍進が目覚ましいことから、最新技術を習得する				
科目内容	ドローン・三次元計測システムの使用方法等を理解する				
関連科目	測樹・測量				
講義内容	(1) ドローン活用(基礎知識・法令・林業での活用法等) (2) ドローンの空撮(基本操作・カメラ設定) (3) 空撮写真での三次元解析(自動航行撮影・三次元化とオルソ画像作成) (4) 森林三次元計測システム活用(森林資源調査・作業道設計)				
到達目標	最新の測量技術を理解する				
進め方	講義及び森林等における実習により行う				
教材	「ドローンパイロットの基礎知識」(株)エネルギー・コミュニケーションズ(著)、プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
木材利用 I	普及S・中山間C	1年	1	16h	林業
背景と目的	木材の利用・流通までの幅広い知識を持った人材を養成していく必要がある				
科目内容	木材の特性とその加工法及び木材利用について理解する(構造と材質、製材加工、乾燥)				
関連科目	木材利用II・木材流通・販売				
講義内容	(1) 暮らしの中の木材利用(木材の特徴・環境材料・木造住宅) (2) 木材利用の基礎知識(材積・含水率・構造・強度) (3) 木材の乾燥と含水率 (4) 木材の強度				
到達目標	木材の特性等の基礎知識を習得する				
進め方	講義・実習及び製材工場の視察等により行う				
教材	「林産物利用」実教出版株式会社・プリント等の配布				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
木材利用Ⅱ	中山間C・内部	2年	1	16h	林業
背景と目的	製材工場以外にも合板やバイオマス発電所等の、木材を大量に供給する需要者がある				
科目内容	木材の特性とその加工法及び木材利用について理解する(合板や木質バイオマス等の新たな利活用)				
関連科目	木材利用Ⅰ・木造建築				
講義内容	(1) 森林資源と木材加工と木造建築 (2) 木質材料の定義・特徴・用途(合板・集成材・CLT・LVL等) (3) 木質バイオマスの利活用(チップ・おが粉等)				
到達目標	木質材料・木質チップ等々の利活用の状況を理解する				
進め方	講義及び視察や実習により行う				
教材	プリント等の配布				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
森林資源活用	中山間C・外部	1年	2	32h	林業
背景と目的	木材のみでなく森林を活用して収入を得ることが重要である				
科目内容	森林資源の利活用(キノコ・特用樹等)及び栽培技術を習得する				
関連科目					
講義内容	(1) 特用林産物(キノコ・特用樹等)の概要 (2) 特用林産物(キノコ・特用樹等)の栽培技術 (3) 野生キノコの鑑定				
到達目標	特用林産物の栽培技術の概要を理解する				
進め方	講義及び実習により行う				
教材	プリント等の配布				
成績評価	レポート・小テスト・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
木材流通・販売	外部・内部	1年	1	16h	林業
背景と目的	県産材及び県内で製材された製品がどのように流れるかを把握する必要がある				
科目内容	素材、製材品等の流通及び販売について理解するとともに、需要拡大について考える				
関連科目	木造建築				
講義内容	(1) 木材需給状況の現状 (2) 県内の木材流通・販売 (3) 県内の木材利用実態 (4) 製材品の流通				
到達目標	県内産の素材及び製材品の流通実態を把握する				
進め方	講義・視察(木材市場・製品市場等)及び演習により行う				
教材	プリント等の配布				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
木造建築	外部	2年	1	16h	林業
背景と目的	木材利用の中心となる木造住宅基礎的知識を習得するとともに、需要者が求める木材について学ぶ				
科目内容	木造建築の工法及び構造の基本を学ぶことにより、地域材利用を推進するとともに、必要な森林施業・木材生産について考える。				
関連科目	採材技術				
講義内容	(1) 木造住宅の構造と特性 (在来軸組工法・2×4・プレハブ工法・CLT等) (2) 木造住宅の基礎材料 (部材の名称、構造材・造作材に使用する樹種) (3) 安全性と木質環境 (耐震・耐熱・視覚・接触感覚・調湿機能等の木材と人のかかわり) (4) 建築材料・建築構造の現地見学				
到達目標	木造住宅への木材の使われ方を理解する				
進め方	講義及び現地視察等により行う				
教材	プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
林業機械Ⅰ	内部	1年	1	16h	林業
背景と目的	林業機械の基礎を学ぶ				
科目内容	林業機械を安全かつ効率的に利用するために必要な、知識や操作方法等について学ぶ				
関連科目	林業機械Ⅱ				
講義内容	(1) 機械化の歴史・必要性・種類 (2) 手工具の取り扱い (3) エンジンの構造 (4) 機械のメンテナンス(基礎)				
到達目標	手工具・小型林業機械の取り扱い・整備について理解する				
進め方	講義及び森林内における実習により行う。				
教材	プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
林業機械Ⅱ	中山間C・内部	2年	2 1	40h 16h	森林技術 経営管理
背景と目的	安全を最優先したうえで、生産性及び生産コストの意識を高める必要がある				
科目内容	コストを意識し、安全な作業計画を作成する				
関連科目	林業機械Ⅰ				
講義内容	(1) 労働生産性と生産コスト (2) コスト計算と工程管理 (3) 作業計画書の作成(伐木造材) (4) 作業計画書の作成(林業架線作業) (5) 林業機械のメンテナンス(応用)				
到達目標	コスト意識を高める				
進め方	講義及び森林内における実習により行う				
教材	プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
労働安全衛生	内部	1年	1	16h	林業
背景と目的	林業の労働災害の状況を理解するとともに、安全意識の高揚に努める				
科目内容	事業体等が行っている、労働災害防止の取り組みについて理解する				
関連科目	林業機械Ⅰ、林業機械Ⅱ				
講義内容	(1) 林業労働災害の現状・分析 (2) 林業労働災害の防止対策 (3) 危険予知トレーニング・ヒヤリハット (4) 林材業におけるリスクアセスメント				
到達目標	労働災害防止の取り組みを理解し、安全意識を高める				
進め方	講義及び演習により行う				
教材	プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
伐木技術	外部	1年	2	72h	林業
背景と目的	林業の現場で重大事故が多く発生しているチェーンソーについて、安全作業を重点的に学ぶ				
科目内容	安全な作業方法及び機械整備等について理解する				
関連科目	林業機械Ⅰ・林業機械Ⅱ				
講義内容	(1) チェーンソーの構造・駆動原理の理解 (2) チェーンソーの整備・目立て (3) 伐木作業に関する労働安全衛生（災害の発生状況・安全対策） (4) 伐倒訓練機を活用した基本訓練・森林内での基本訓練 (5) 認知判断力に関する実習				
到達目標	チェーンソーを安全に使用するためのポイントを理解する				
進め方	講義及び実習フィールド・森林等における実習により行う（伐倒訓練機を活用する）				
教材	「チェーンソー作業の安全ナビ」（林材業労働災害防止協会）プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考	伐木等業務特別教育の実技部分の時間に充てる。				

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
採材技術	外部	2年	1	16h	林業
背景と目的	木材の価格は採材・木取りによって増減する				
科目内容	木材を高値で販売するために必要な、木取り・欠点等について学ぶ				
関連科目	木造建築				
講義内容	(1) 丸太の見方（木口の欠点・材の欠点） (2) 製材用丸太の木取り・軸組み工法 (3) 仕分け・選別と高価販売のポイント (4) 現地での採材				
到達目標	高値販売のためのポイントを理解する				
進め方	講義及び森林内・製材所における実習により行う。				
教材	プリント等配布				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
森林路網	外部	2年	2	32h	森林技術
			1	16h	経営管理
背景と目的	低コスト木材生産のためには路網整備が重要である				
科目内容	森林作業道の路線計画及び設計に必要な知識を習得する				
関連科目	林業機械Ⅰ・Ⅱ				
講義内容	(1) ルート選定 (2) 平面・縦断・横断測量 (3) 平面図・縦断図・横断図等の作成 (4) 設計・土量計算				
到達目標	測量の手法、各種図面の作成方法を理解する				
進め方	現地確認・現地測量の後、教室内で各種図面を作成、土量計算する				
教材	「しまねで目指す道づくり」島根県、プリント配布				
成績評価	成果品等80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考	路網開設については専攻実習内で実施する				

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
資格取得(内部)		1年	5	181h	林業
背景と目的	機械を安全に使用するための知識・技術を習得する(林業に必要な資格を取得する)				
科目内容	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする				
関連科目					
講義内容	(1) 林業架線作業主任者免許講習(学科54時間・実技50時間) (2) 車両系建設機械運転技能講習(学科9時間・実技5時間) (3) 機械集材装置運転特別教育(学科6時間・実技8時間) (4) 車両系木材伐出機械運転特別教育(伐木等・走行・簡易架線) (学科14時間・実技20時間) (5) 伐木等業務特別教育(学科9時間) (6) 刈払機取扱者安全衛生教育(学科5時間・実技1時間)				
到達目標	各種機械の安全な使用方法を理解する				
進め方	学科及び実技により行う				
教材	「林業架線作業主任者テキスト」「車両系木材伐出機械安全マニュアル」「チェーンソー作業の安全ナビ」「安全な刈払機作業のポイント」林業・木材製造業労働災害防止協会・「車両系建設機械運転者教本」建設業労働災害防止協会				
成績評価	(1) 林業架線作業主任者免許規定のとおり、(2)～(5)は出席時間				
評価基準	(1) 林業架線作業主任者免許規定のとおり				
備考	(5)の実技は「伐木技術」の時間に実施				

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
資格取得(外部)		1年	4	60h	林業
背景と目的	機械を安全に使用するための知識・技術を習得する(林業に必要な資格を取得する)				
科目内容	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする				
関連科目					
講義内容	(1) 大型特殊自動車運転免許(実技5時間) (2) 小型移動式クレーン運転技能講習(学科13時間・実技8時間) (3) 玉掛技能講習(学科9時間・実技6時間) (4) 救急法基礎講習(実技5時間) (5) 日赤救急法救急員(実技14時間)				
到達目標	免許・講習修了証を取得する				
進め方	各種資格の主催団体(外部委託)で実施する				
教材	外部委託の団体が指定する教材を購入				
成績評価	外部委託の団体が指定の規定による				
評価基準	外部委託の団体が指定の規定による				
備考	実技の時間数(38時間)は内数				

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
資格取得(外部)		2年	1	16h	林業
背景と目的	機械を安全に使用するための知識・技術を習得する(林業に必要な資格を取得する)				
科目内容	各種法令に基づく内容及び時間数とする				
関連科目					
講義内容	(1)フォークリフト運転技能講習(学科7時間・実技4時間) (2)狩猟免許(わな)(学科5時間)				
到達目標	免許・講習修了証を取得する				
進め方	各種資格の主催団体(外部委託)で実施する				
教材	外部委託の団体が指定する教材を購入				
成績評価	外部委託の団体の規定による				
評価基準	外部委託の団体の規定による				
備考	実技の時間数(4時間)は内数				

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
育林技術Ⅰ	内部	1年	2	32h	林業
背景と目的	育林の目的や目的の応じた施業方法について、基本的な知識と技術を習得する				
科目内容	育林の基礎知識や単層林の造成方法について理解する				
関連科目	育林技術Ⅱ				
講義内容	(1)森林づくりの基礎(林木の生育と環境) (2)森林づくりの基礎(目標林型・施業方法) (3)有名林業地の森林づくり (4)森林の更新(人工造林・天然更新) (5)人工造林技術(地拵え・植え付け) (6)保育技術(下刈り・雪起こし・除伐・枝打ち) (7)間伐と密度管理(必要性・間伐方法等) (8)間伐と密度管理(密度管理・選木等)				
到達目標	単層林の造成方法を理解する				
進め方	講義及び森林内における実習により行う。				
教材	「森林科学」(実教出版株式会社)、プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科目	担当教員	学年	単位数	時間数	対象
育林技術Ⅱ	内部	2年	1	16h	森林技術
			1	8h	経営管理
背景と目的	循環型林業の実現のために重要な「植えて」「育てる」の低コスト化について理解する				
科目内容	「植栽」と「間伐」について理解を深める				
関連科目					
講義内容	(1)適地適木 (2)低密度植栽・コンテナ苗・一貫作業等の低コスト化の取り組み (3)間伐の低コスト化 (4)列状間伐の得失・作業方法				
到達目標	植栽・間伐の低コスト化について理解を深める				
進め方	講義及び森林内における実習により行う。				
教材	「森林科学」(実教出版株式会社)、プリント等の配付				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
育苗技術	中山間C・緑化C	1年	2	32h	林業
背景と目的	造林用苗木の生産者は減少しているため、苗木育成技術を理解する				
科目内容	普通苗の育苗技術を習得するため、苗畑における一連の作業を体験する				
関連科目					
講義内容	(1) 播種 (2) 挿し木 (3) 床替え (4) 苗畑管理 (5) 根切り (6) 掘り取り・選苗・仮植 (7) 床づくり (8) 種子採取・保存 (9) コンテナ苗				
到達目標	普通苗の育苗技術を習得するとともに、コンテナ苗生産の概要を理解する				
進め方	基本的には、講義(中山間C)・実習(緑化C苗畑)で、1か月に1回程度行う				
教材	「山行苗生産技術マニュアル」島根県林業種苗協同組合、「林業種苗の生産・配布に必要な知識」全国山林種苗協同組合連合会				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考	「林業種苗生産事業者講習会」を受講する				

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
森林保護	中山間C・内部	2年	3 1	48h 16h	森林技術 経営管理
背景と目的	健全な森林造成のため、森林被害について理解する				
科目内容	森林被害について学び、その防除法・対処法について学ぶ。併せて庭園木管理について学ぶ				
関連科目	育林技術				
講義内容	(1) 森林の気象害 (2) 林木等の虫害の診断とその防除(松くい虫被害・ナラ枯れ被害等) (3) 林木等の病害の診断とその防除 (4) 野生鳥獣被害の診断とその防除 (5) わな猟免許 (6) 庭園木の管理				
到達目標	代表的な森林被害の特徴及びその防除法を理解する				
進め方	講義及び実習により行う				
教材	「原色図鑑島根県樹木病虫獣害」(島根県林業改良普及協会)、「冊子鳥獣被害診断と防除マニュアル」(島根県農林水産部)、「狩猟読本」、プリント等の配布				
成績評価	レポート・定期試験80%、出席・態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考	可能な限り、狩猟免許(わな猟)を取得する				

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
専攻実習 I	専攻スタッフ等	1年	18	561h	林業
背景と目的	資質の向上と経営能力を養う				
科目内容	各科目の学科等で学んだことを現地で実践する				
関連科目					
講義内容	(1) 育苗 (2) 育林 (3) 樹木 (4) 測樹 (5) 測量 (6) 林業機械 (7) 高性能林業機械 (8) 労働安全 (9) 木材利用 (10) 森林資源活用 (11) プロジェクト学習				
到達目標	基礎的技術を身に付ける				
進め方	教室内での演習・先進地等の視察・森林等における実習で行う。				
教材					
成績評価	技能40%・態度20%・出席40%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
専攻実習Ⅱ	専攻スタッフ等	2年	15	438h	林業
背景と目的	資質の向上と経営能力を養う				
科目内容	各科目の学科等で学んだことを現地で実践する				
関連科目					
講義内容	(1) 育林 (2) 測樹 (3) 測量 (4) GIS・GPS (5) 林業機械 (6) 高性能林業機械 (7) 作業道 (8) 提案書作成 (9) 森林経営計画 (10) スマート林業 (11) プロジェクト学習				
到達目標	基礎的技術を身に付ける				
進め方	教室内での演習・先進地等の視察・森林等における実習で行う。				
教材					
成績評価	技能40%・態度20%・出席40%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
先進農林業者等体験学習Ⅰ	内部	1年	1	24h	林業
背景と目的	現場に即した実践的な知識や技術を習得するとともに、就職先選定に生かす				
科目内容	農林大学校で学んだ知識・技術の成果を踏まえ、より実践的な技術を習得するとともに、実社会への適応力向上を図る				
関連科目	先進農林業者等体験学習Ⅱ				
講義内容	(1) 森林組合・民間事業者等での実習				
到達目標	実践的な技術を学ぶ				
進め方	原則として自宅又は寮から通って実習を行う。内容は受入事業者等の作業内容による				
教材					
成績評価	学習終了60%・レポート20%・実習態度20%の割合で評価				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考					

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
先進農林業者等体験学習Ⅱ	内部	2年	5	160h	林業
背景と目的	現場に即した実践的な知識や技術を習得するとともに、就職先選定に生かす				
科目内容	農林大学校で学んだ知識・技術の成果を踏まえ、より実践的な技術を習得するとともに、実社会への適応力向上を図る				
関連科目	先進農林業者等体験学習Ⅰ				
講義内容	(1) 森林組合・民間事業者等での実習 (2) 体験学習報告書作成 (3) 先進農林業者等体験学習発表				
到達目標	実践的な技術を身に付けるとともに、勤労意識を高める				
進め方	原則として自宅又は寮から通って実習を行う。内容は受入事業者等の作業内容による				
教材					
成績評価	学習終了60%・報告会10%・報告書15%・事業者からの報告書15%・訪問指導5%				
評価基準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備考	実習期間中に訪問指導を行う				

科 目	担当教員	学 年	単位数	時間数	対象
卒業論文	専攻スタッフ等	2年	4	128h	林業
背 景 と 目 的	2年間で学んだ内容から疑問に思った点等について、調査・とりまとめを行う				
科 目 内 容	専攻科目で学習及び実習で学んだ成果を参考にし、課題設定から調査方法を検討し、技術的・経営的課題としてまとめる				
関 連 科 目					
講 義 内 容	(1) 課題の設定 (2) 課題解決のための調査、研究計画の策定 (3) 調査、研究 (4) 調査、研究結果のとりまとめ				
到 達 目 標	自ら設定した課題について調査研究しとりまとめ、発表する				
進 め 方	校内、外での研修、実習を通じて調査研究を行う				
教 材					
成 績 評 価	論文内容60%、発表会の総合審査40%の割合で評価				
評 価 基 準	100点満点とし、60点以上を合格とする				
備 考					